

## 子どもたちが「身を乗り出した」終業式

12月23日（火）、無事に2学期の終業式を迎えました。終業式といえば「校長先生の話」がつきものですが、実は毎回、どのような内容にするか頭を悩ませます。本校は幼稚部から中学部まで9名の子どもたちが在籍しており、年齢の幅が広いため、「全員に届くポイント」を絞るのがなかなか難しいのです。

これまでの学習を振り返る際、今回は少し趣向を凝らしました。子どもたちの学習風景の一部を、クイズのように少しずつ画像で見せていくことにしたのです。

教室の絨毯の一部や、校外学習・修学旅行のワンシーンを映し出すと、子どもたちは思った以上に画面に釘付けになりました。「あ、プレイルームだ！」「〇〇さんだ！」と、私が問いかけるまでもなく、次々と手が挙がります。画像を通して当時の情景を思い出しながら、みんなで楽しく2学期を振り返ることができました。

学習指導要領でも「主体的に学ぶ」重要性が掲げられていますが、それを引き出すのは、指導者側の「準備」と「展開」に他なりません。思わず身を乗り出してしまうような仕掛けの大切さを、私自身が改めて実感した時間でした。

校長の話も例外ではありません。学校の経営者として、子どもたちはもちろん、教職員にとっても何らかのヒントになるような発信を続けていきたいと考えています。さて、3学期の始業式はどう驚かせようか、今から頭を悩ませながら、準備を始めています。

